

平成18年度事業報告

株式会社エフエム新津の平成18年4月1日～平成19年3月31日迄の事業報告を下記の通り報告する。

1) 営業の概況

営業の状況及び成果

景気は消費に弱さがみられるものの、回復を続けており、平成18年度のわが国経済は、大企業を中心に順調な好景気が持続し、雇用・所得環境は改善方向に推移しました。一方、中小企業の全般的な経営指標はマイナス方向に推移しており、当社を取り巻く経営環境は予断を許さない状況が続いております。

当社が営業基盤とする地域においては依然として、地域間格差・業種間格差が残っており、不景気感はぬぐえず、企業等の広告宣伝費削減の影響による広告収入の不振により収益は厳しい状況で推移致しました。

このような状況の中、本社を置く新潟市は本州日本海側初の政令指定都市移行を目前に控え、今後交流人口の拡大や経済の活性化が期待されるなど、当社の事業にとって好材料になると考えられます。

この時期を逸することなく、収入の増加に結びつけるとともに、コミュニティ放送局の果たす役割は何か改めて確認する必要を感じております。

開局当初から掲げていた「エフエム新津＝防災放送局」の責務を果たすべく、市民の生命と財産を守るべく割り込み放送していた火災情報も、政令市移行後の消防局のシステム変更を見据えた情報網の再構築を図り、当社と消防局のホットラインを増設することにより24時間全市の火災・警戒情報を情報提供できるに至った。

さらに、設置される秋葉区において提案された「特色ある区作り予算」の中に「緊急告知ラジオ(大震災時などの際、ラジオの電源を切っても自動でスイッチが入り情報を聞けるラジオ)」の導入が予定されている。

「ラジオはライフライン」災害時はエフエム新津にダイヤルを合わせる市民が定着しつつあるが、普段からも生活に役立つ情報・娯楽・行政情報を提供し「聞かれるメディア」を目指し、又スポンサーにおいても「PRしやすいメディア」として役立てられるよう努力していきたい。また、累損の解消に向け、全力を傾ける所存である。

平成18年度 収支決算書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

※消費税込み表示
単位:円

科 目	H18年決算額
事業収入	58,903,232
事業支出	58,276,323
営業費用	58,255,323
①番組費	8,621,704
②技術費	3,627,282
③販売費	6,225,598
④人件費	29,017,140
⑤管理費	10,763,599
営業外費用	21,000
法人税	555,351
当期損益	71,558
累計損益	▲ 16,304,701